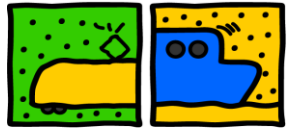


第4回新道路研究会(2013/4/25)



t-lab

利害関係者とのコミュニケーションに 関する研究紹介

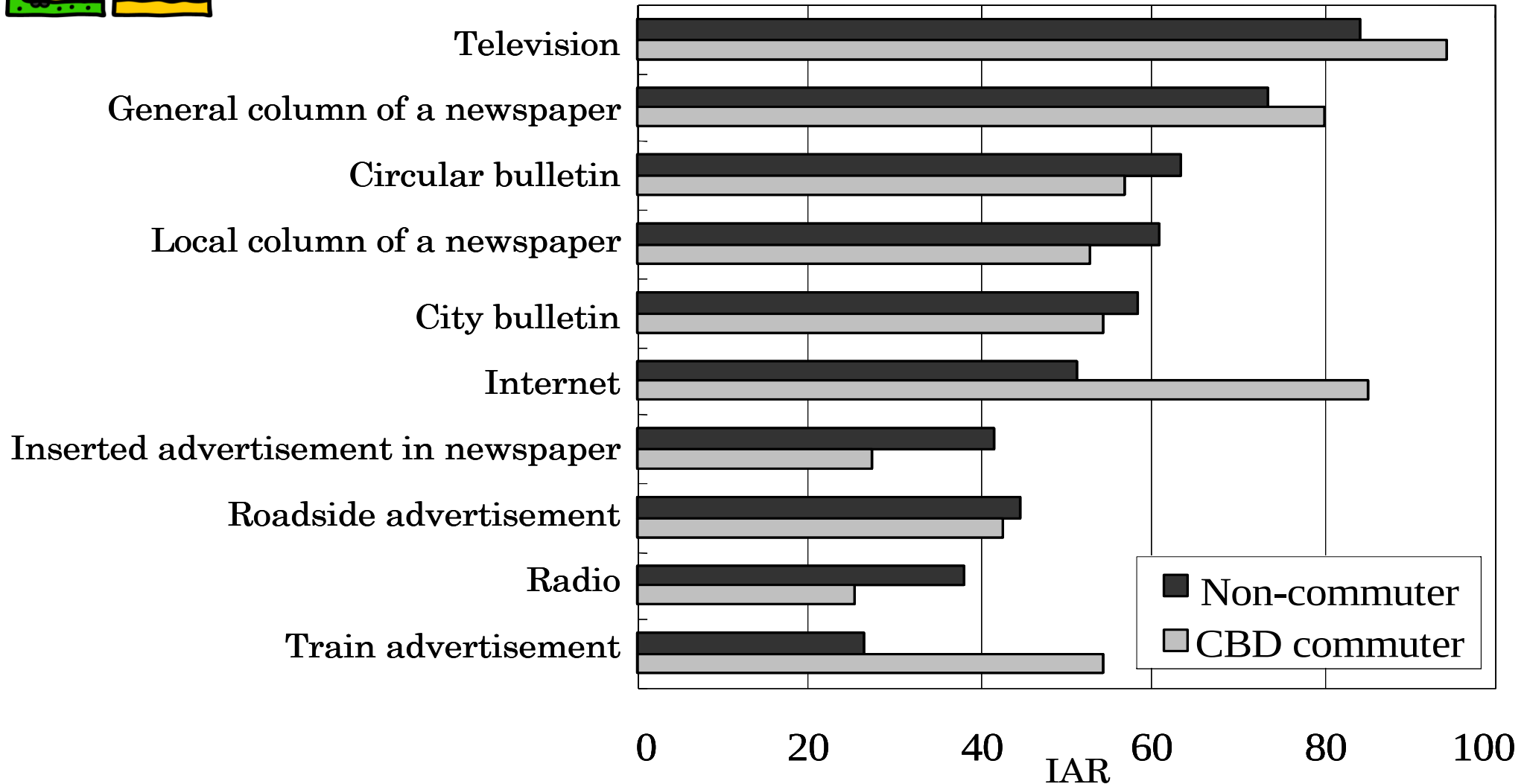
東京理科大学 理工学部 土木工学科
寺部慎太郎



交通基盤整備に関わる計画策定プロセスで 注意したいこと

- 市民の**興味を喚起**する工夫がまだ足りない
 - 概略計画は具体性が相対的に低く、プロセス早期であるので、市民は興味を持ちにくい.
 - **PI**(パブリック・インボルブメント)の形骸化
 - マスコミの活用など多様な露出を.

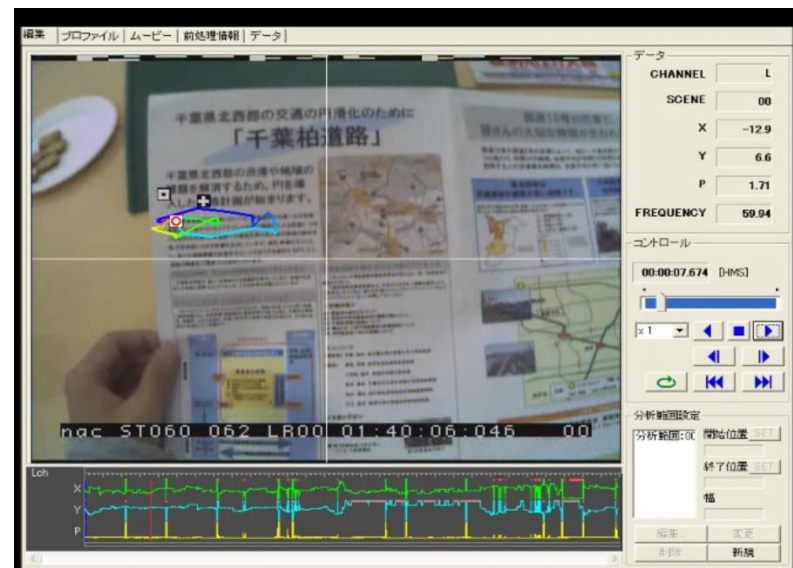
メディア別にみた情報到達率



- テレビや新聞, 回覧板, 自治体広報紙は高い

効果的なニュースレターの要件

- 広報資料を折込チラシに混ぜて、より普通の環境で閲覧する際の行動(閲覧時間・情報の種類・瞳孔径)を調べたところ、
 - 他のチラシと比較すると「バイパス道路計画」の広報資料は興味をもたれにくい(9人中3人は手に取ったが読まず、他は12~62秒読んだ)。
 - しかし、情報の種類と配置を工夫してアピールすると効果あり。



効果的なニュースレターの要件（続）

- 効果的なニュースレター**創刊号**を作成するためには，
 - － 資料の左上には，計画名よりも道路の必要性を訴えかけるフレーズを配置。
 - － 内容は「**道路の必要性**」に関する項目を主とする。
 - － 「PIプロセス」などは，専門用語を極力省き，イラストなどで説明。
 - － 「有識者委員会」の情報は不要。



目的強調型

体制強調型

バランス型

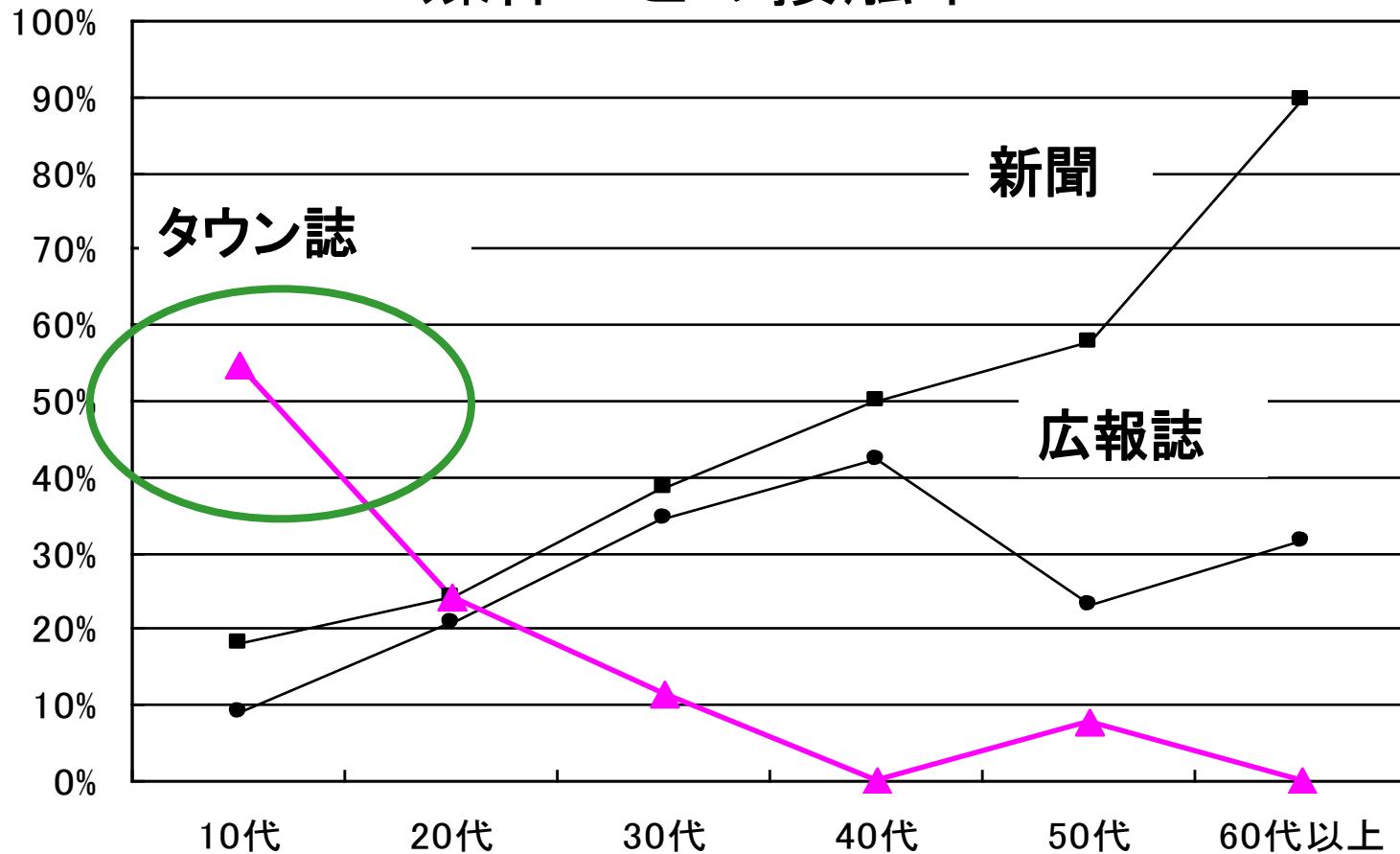
交通関連の新聞報道量比較

新聞社	NYT	Sun	TODAY	朝日	毎日	読売	日経	日本海
平均総頁数 (頁)	87	60	16	36 or 40	28 or 32	36 or 40	40	28
交通関連記事数 (記事)	377	125	515	518	533	540	912	520
一日平均記事数 (記事)	4.60	1.52	2.02	1.42	1.46	1.48	2.50	1.42
一頁平均記事数 (記事)	0.053	0.025	0.126	0.037	0.049	0.039	0.062	0.051
一記事平均単語数 (単語)	632	270	—	269	247	262	231	310
抽出標本数	82	82	50	365	365	365	365	365

- 我が国の交通関連の新聞報道量は、
米国より低い

世代別・媒体別の接触率の違い

媒体ごとの接触率



一般タウン誌は、若年層の読者数が多く、新聞から隔たっている
若年層への情報伝達に有効であると言える。
記憶に残る情報であれば、有効な媒体といえる。



コミュニケーションの評価に影響する要因

話し方の評価要因を組み合わせで作成した「説明動画」をweb調査で評価(20-60歳代の108名)



表 コンジョイント分析結果

要因	推定値
応答姿勢	0.549***
言い回し	0.350***
専門用語	0.787***
尤度比	0.0781

*** $P < 0.01$

- 専門用語は評価に影響大
- 専門用語が用いられ、回りくどい言い回しの応答をされたことにより、**応答姿勢の積極さが伝わらない**

➤ ちなみに、以前の予備実験では、言い回しの推定値は負の値
→回りくどいと良い評価につながってしまう

...「回りくどいと、一生懸命話してくれているようで好感が持てる」「簡潔だと冷たい感じ」という感想

学士請求論文

道路関連ラジオニュースが 交通基盤整備事業への意識に 与える影響

平成25年 2月13日(水)
計画研究室 7609112 山崎 未央

指導教員	准教授	寺部	慎太郎
	教授	内山	久雄
	助教	葛西	誠



背景・目的

コンクリートから人へ

公共事業不要論

公共事業は本当に
必要なのか？

公共事業に対するマイナスイメージ

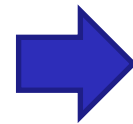


事業計画

事業目的

地域住民

理解や認知が進まず…



関心が高まらない

公共事業に対して**関心を持ってもらう**ことが必要

本研究では、音声の聴取により関心が高まることを想定し

ラジオニュースが公共事業への意識に与える影響を検討



ラジオの現状

➤ なぜラジオなのか？

①人々が利用するメディアのひとつ，特に高齢者の聴取割合が高い

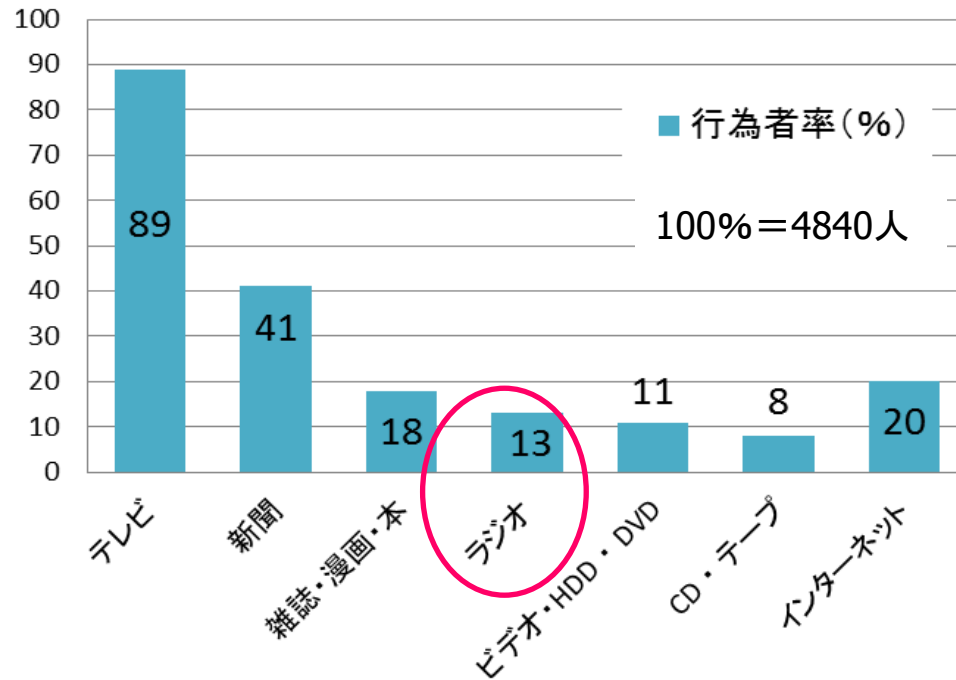


図1：各メディアの行為率

ラジオ聴取者全体
627人

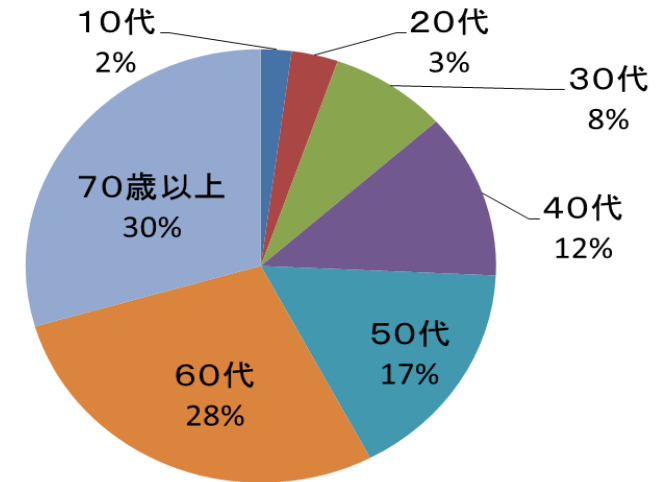


図2：年齢別ラジオ聴取割合

※出典：NHK国民生活調査2010

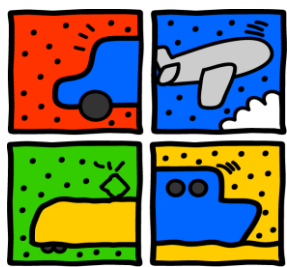
②制作費，広告費が安い

ラジオ広告費：20秒あたり6～10万
(地域ラジオ：2～3万)

※出典：日本ラジオ広告推進機構

● 広告費

テレビCM15秒：200万～300万円
新聞：数100万～数1000万円

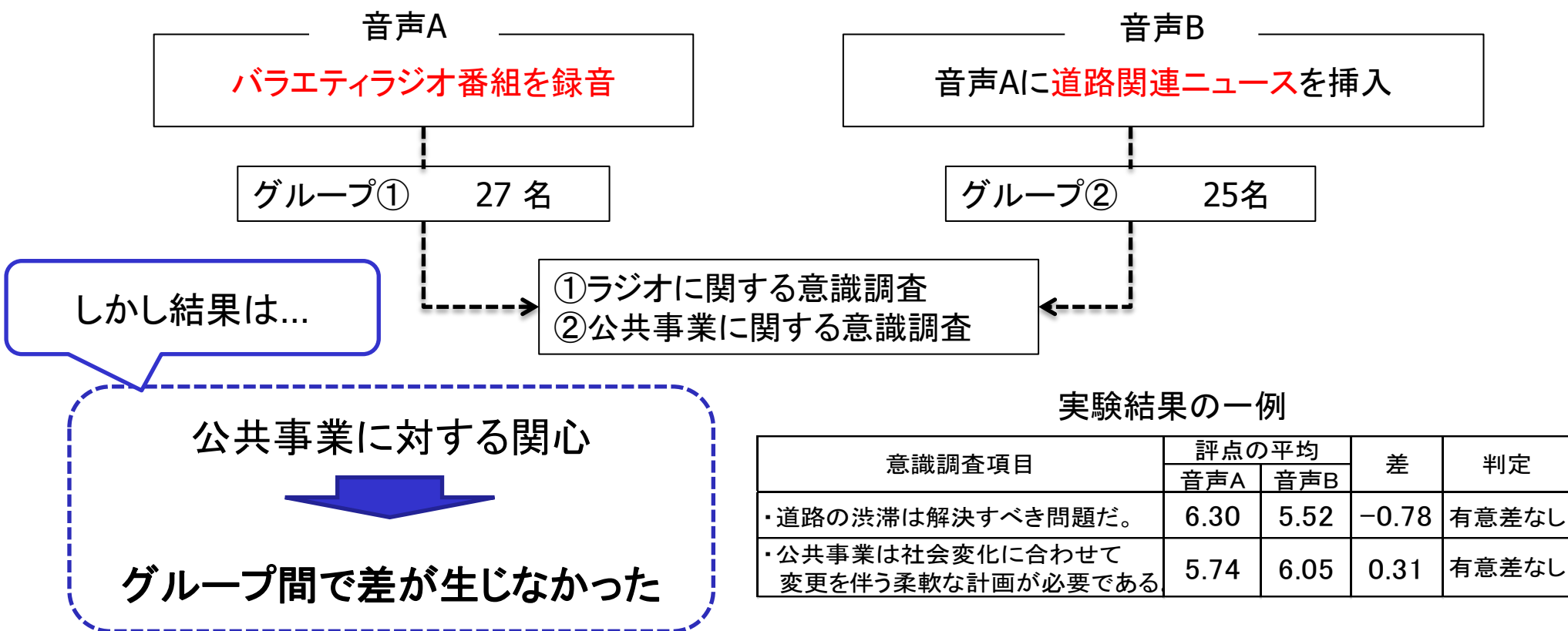


実験1の概要

バラエティ番組内のニュース接触実験

- ・実験日：平成24年9月13日（木），14日（金）
- ・被験者：2CV測量学実習Ⅱ受講者52名

- ◆ 録音したバラエティラジオ番組をもとに2種類のオリジナルのラジオ音声 A, 音声B を制作
- ◆ 音声Aを聴取させたグループ①と音声Bを聴取させたグループ②の間で意識調査の評点に差が見られるかを検証した



実験結果の一例

意識調査項目	評点の平均		差	判定
	音声A	音声B		
・道路の渋滞は解決すべき問題だ。	6.30	5.52	-0.78	有意差なし
・公共事業は社会変化に合わせて変更を伴う柔軟な計画が必要である	5.74	6.05	0.31	有意差なし



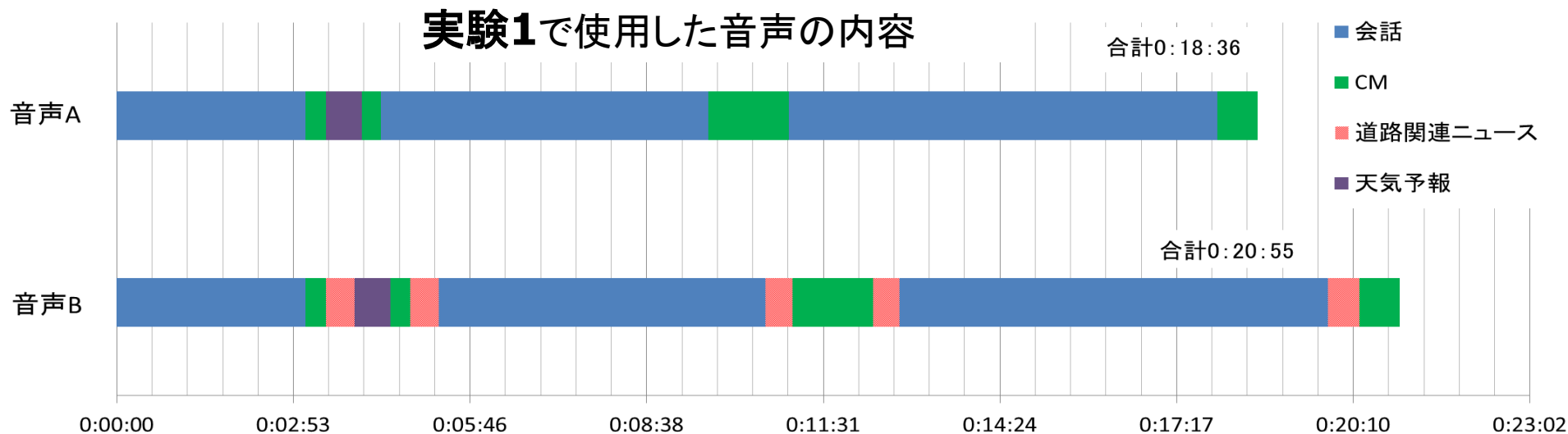
実験1の反省

1. 実験環境が好ましくない：音声が取れていない可能性！
2. ラジオ内にインパクトの強い**CM**：比較され、ニュースが印象に残らない！
3. ラジオが**会話形式**のバラエティ番組：音声にメリハリがない！

◆ 実験1の結果をもとに改善した点

①実験の少人数制 ②ラジオ**CM**のカット ③ラジオを**音楽主体**に

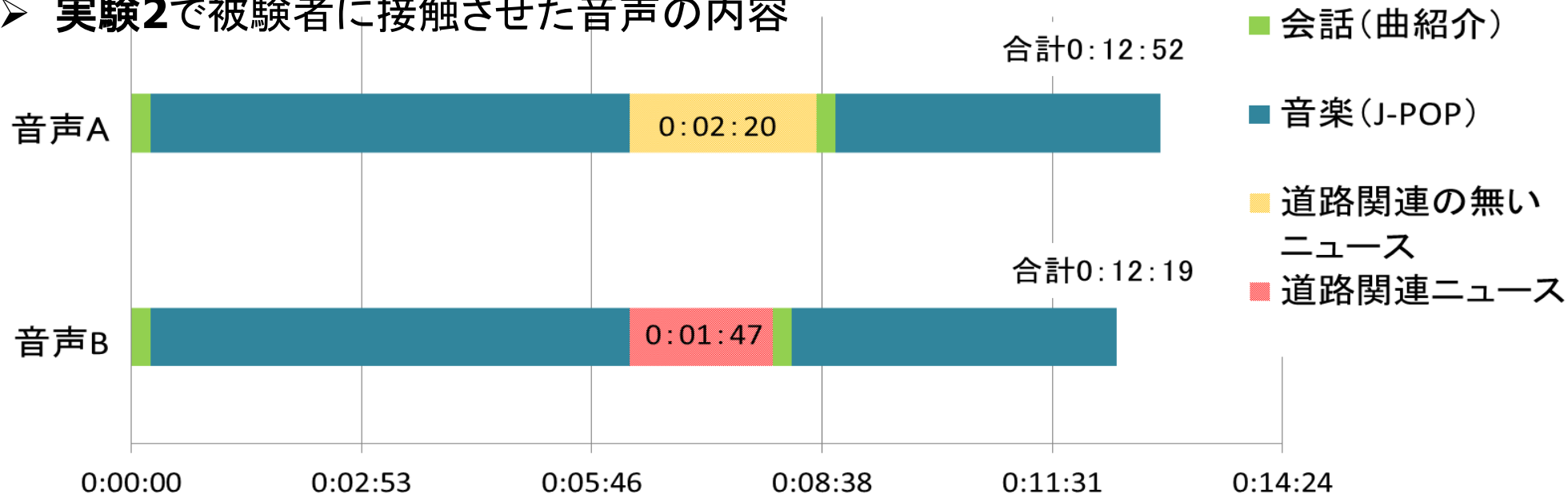
音声が被験者に確実に接触し
道路関連ニュースが被験者の印象に残る





実験材料の変更

➤ 実験2で被験者に接触させた音声の内容



◆ 音声A: 道路関連の無いニュースの内容

オリンピック関係, SNS登録数の変移など, 交通とは関連の無いニュース

◆ 音声B: 道路関連ニュースの内容

道路交通の問題を指摘したニュース

- ・渋滞発生回数の増加
- ・交通事故の多発
- ・バスの遅れ



挿入したニュース【音声A】

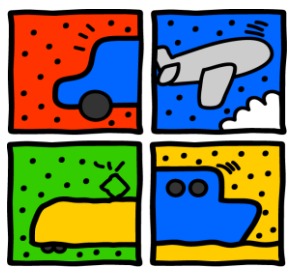
- ① ロンドンオリンピックの競泳男子 200m で、銅メダルを獲得した松田丈志選手は 25 日、現役続行の意思を示しました。東京スイミングセンターで行われた記録会で「もう少し選手として水泳に携わって如果能たら。」と語っています。
- ② 拡大を続けてきた国内のコンビニエンスストア業界もここ数年、長引く消費マインドの冷え込みにより売上が伸び悩んでいます。大手各社は 9 月からすでにクリスマス商戦に向けて、キャンペーン、タイアップ商品などを発表しています。
- ③ 富士キメラ総研の調査によると、SNS : Social Network Service の登録数の伸びは徐々に鈍化していくと見られているものの、2016 年度末地点では 1 億 6000 万人に達すると予測されています。
- ④ 人気ユニット「Dreams Come True」が大晦日の紅白歌合戦を辞退することが 24 日明らかになりました。現在全国ツアー中で、31 日はマリンメッセ福岡でのカウントダウンライブを予定しており、NHK 側から中継出演のオファーを受けていましたが最終的に講演を優先したものとみられます。
- ⑤ アメリカのニュース雑誌タイムが 1970 年代から現在までに販売された最も偉大なゲームソフトをリストアップし話題をよんでいます。中でも 11 月に新作が発売された「とびだせ！動物の森」がランクインし、世界中から高い支持を得ていることがわかりました。

参考：サーチナ (<http://news.searchina.ne.jp/>)



挿入したニュース【音声B】

- ・日本道路交通情報センターは昨日、お盆期間の高速道路渋滞予測を発表しました。最も渋滞発生が予測される地域は都内で、渋滞発生回数合計は過去最高の 47 回になると予測しています。
- ・先日千葉県警は、近年千葉県内で、自動車と人との接触事故が増加傾向にあると発表しました。特に狭い路地での事故が多く、「早急な対策が必要」と指摘しています。
- ・東京都交通局は交通渋滞に伴う都営バスの遅れが近年深刻化しているとの発表をしました。最大で 45 分の遅れが生じていたことが明らかになりました。専門家によると交通量の増加に対して道路の拡幅が進んでいないのが現状との声があがっています。
- ・日本道路交通情報センターは、流山柏間において、渋滞発生回数が近年増え続けていると発表しました。流山市の住宅開発や幹線沿いの大規模店舗増加に伴い、今後も渋滞発生回数は増加傾向にあるだろうと予測されています。
- ・千葉県警は先日、今年の自動車の玉突きによる交通事故の発生回数が去年を上回ったと発表しました。専門家によると、その原因として交通渋滞の増加が関係しているのではないかとの声があがっています。



実験2の概要

音楽番組内のニュース接触実験

- ・実験日: 平成24年11月29日～12月20日
- ・場所: 5号館大学院ゼミ室
- ・被験者: 東京理科大学の学生42名

- ◆ 録音したラジオ音源をもとに2種類の**音楽主体**のオリジナルのラジオ音声 **A** , 音声**B** を制作



実験風景

音声A

道路関連なしニュースを挿入

グループ① 20名

音声B

道路関連ニュースを挿入

グループ② 22名

- ①ラジオに関する意識調査
②公共事業に関する意識調査

・留意点

- 被験者に実験の趣旨が気づかれないようラジオに関するダミーの意識調査を行った
- 確実に音声接触するように被験者を5～9人に分けラジオ音声を聴かせた
- 道路関連ニュースは、原稿の作成、録音を独自に行ったオリジナルの物を使用



実験2の結果

□ 公共事業に関する意識調査結果

音声A: N=20

音声B: N=22

意識調査項目	評点の平均		差	判定
	関連なし: 音声A	関連あり: 音声B		
(1) 何のための工事なのか分からないものが多い。	4.79	4.57	-0.22	
(2) 公共事業は社会変化に合わせて変更を伴う柔軟な計画が必要である。	5.74	6.05	0.31	
(3) 市民は自分の時間を割いてでも公共事業に積極的に関わっていく必要がある。	3.74	4.62	0.88	
(4) 首都圏においてこれ以上道路を建設する必要はない。	4.16	3.43	-0.73	
(5) 道路の渋滞は解決すべき問題だ。	5.74	6.33	0.60	**
(6) 交通事故は解決すべき問題だ。	5.95	6.67	0.72	***
(7) 道路の渋滞を減らすための道路建設は今後増やしていく必要がある。	4.32	5.33	1.02	**
(8) 交通事故を減らすための公共事業は今後増やしていく必要がある。	5.16	5.86	0.70	
(9) 首都圏においてこれ以上鉄道を建設する必要はない。	3.84	4.19	0.35	
(10) 都心にアクセスしやすい料金の高い鉄道を建設するよりも時間はかかっても安い従来の鉄道のままで良い。	4.37	4.62	0.25	

道路関連ニュースを接触させたことで

***:1%有意 ** :5%有意



特に道路問題に対する項目の評点が増加

結論

□実験結果より

- 実験2では「道路問題」に対する関心を示す評点が増加

CMをカットした音楽主体のラジオ内に道路交通関連ニュースを挿入



道路問題への関心増加に影響

結論①

ラジオ音声による道路情報の接触は道路事業に関心を持ってもらう有効な手段

結論②

道路会社などの計画主体はラジオCMを活用する際には
音楽主体の番組を選択した方が効果的！